

令和6年度 第1回村上市環境審議会 会議要約

- 1 開催日時 令和7年1月31日（金）午前10：00～11：30
- 2 開催場所 村上市役所 本庁5階 第5会議室
- 3 出席委員 梅田委員、佐藤委員、河内委員、遠山委員、坂口委員、小池委員
齋藤委員、高橋委員、伴田委員、佐藤委員、小野委員
（オンライン参加）石崎委員、土屋委員
- 4 欠席委員 菅原委員、佐藤委員
- 5 事務局 環境課：阿部課長、大滝参事
生活環境室：宮村課長補佐、小野寺係長
環境政策室：本間課長補佐、志田係長、中村主査
- 6 会議次第及び会議要約 別紙のとおり

令和6年度 第1回村上市環境審議会

日時：令和7年1月31日(金)午前10時

場所：村上市役所第5会議室

次 第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報告事項

- (1) 第2次村上市環境基本計画令和5年度進捗状況について……資料1(別紙1～3)
- (2) 令和5年度村上市の環境状況について……………資料2

4 そ の 他

5 閉 会(副会長)

<資 料>

- ・次第
- ・委員名簿
- ・資料1・・・第2次村上市環境基本計画 令和5年度進捗状況報告書
 - ・別紙1 令和5年度環境基本計画 環境指標の進捗状況
 - ・別紙2 令和5年度環境基本計画 施策評価一覧
 - ・別紙3 令和6年度第1回村上市環境基本計画等進捗管理委員会での意見
- ・資料2・・・村上市環境の状況報告書 令和5年度版

会議要約

1 開会

(定足数 報告)

(各委員 自己紹介)

(事務局 自己紹介)

2 あいさつ

(会長あいさつ)

3 報告事項

(1) 第2次村上市環境基本計画令和5年度進捗状況報告書について

(資料1、別紙1、別紙2、別紙3に基づき事務局から説明)

事務局： 事前にご意見をいただいたものをご紹介します。別紙1の環境指標の進捗状況におきまして、「公害苦情件数」の目標値が「5件」となっているが、「ゼロ件」を目指すべきではないかとのご意見をいただいております。こちらは、来年度の中間見直しで検討いたします。そういったような色々なご意見をいただければと思います。

委員： 別紙3の進捗管理委員会の意見ということで、「鳥獣被害の対策推進」のところ、ジビエの話があります。現状、動物を最終的に解体して、それをどうするかということで、埋めたりしていますが、以前農水省の勉強会が金沢であった際、ジビエがテーマでしたが、女性達による狩猟の団体がイノシシ、シカ、クマなど獲ったものを、工場で解体して、加工した食肉の試食会に参加したことがあります。本市でも、鳥獣被害が多いと思いますが、市の施策で、検討や動きはあるのでしょうか。

事務局： 進捗管理委員会でも、委員よりジビエに関する情報提供ということで、朝日地区でジビエをされる方が作業場を立ち上げたというお話がありました。委員会後、担当課に聞き取りをした中では、ジビエとするには、動物の命を奪った後に、そのまますぐ血抜きをしないと、ジビエとしての肉にならないので、その体制に課題があるとのことでした。鳥獣対策には課題が多くありますが、それらの対策も検討しているようです。

委員： 別紙2の施策評価一覧において、施策として「海浜植物の保護」、「貴重な野生動植物の保護」とありますが、取組状況として「定期的な調査は実施できていない」とありますし、それから「セナミスミレの保護柵を設置した」とありますが、市としてどの植物を保護することとしているのでしょうか、またそれらの生息状況について、調査はしているのでしょうか。取組状況では、セナミスミレの保護柵を設置して、現状維持でAになっていますが、セナミスミレは衰退しているように見えますが、評価は「現状維持」でよかったのでしょうか。セナミスミレは絶滅危惧Ⅱ類ですが、一方アナミスミレはⅠ類なのでより貴重とも思います。保護されていないのは、調査がされていないからではないのでしょうか。

事務局： セナミスミレに関しては、昔から要望も多く受けていることから保護してきているという経緯があります。委員ご指摘の他の貴重な植物がどこにどのように生息しているのかは、市として調査もしていない現状です。我々もそういう知見がございませんので、今後、生息状況について、教えていただきながら、調査をするかどうか検討していきたいと思います。

委員： 日本海特有の植物というのがあります。村上市は南と北のちょうど境目のところにあるので、貴重な植物はかなりあります。例えばチマキザサは日本海特有の植物です。日本海特有の植物についての情報提供することはできます。

委員： ハマナスも、「市の花」になっているのに、だんだん衰退して生息する場所がなくなってきていますので、どのようになっているのかと思います。

委員： ハマナスは、以前街路樹に使ったこともありますが、ごみ拾いのときに、とげが刺さるということで、切られたという経緯もあります。

委員： 海岸のごみ拾いについて、各地域でたくさんやっているのはよくわかりますが、塩谷のアカハネバッタの生息地のごみ拾いも参加しましたが、ごみを拾ってもその下にもごみが埋まっているという状況、プラごみだらけの状況です。他の地区でもきっとそうだと思いますし、それだけごみが海岸に集まってきているっていうのはわかりますので、徹底的にきれいにする方法はないのでしょうか。動植物のためにも、美観のためにもごみは拾いたいと思います。

委員： 海岸のごみの件ですが、昨年環境フェスタで私たちの会で、「海のごみはどこから来るの」というテーマで、写真パネルを展示しました。その際、塩谷と瀬波と岩船の3ヶ所を写真撮影で回りましたが、その際ちょうど塩谷で海岸清掃があつて、公会堂の前にもものすごいごみの山があり、地元の方の苦労がわかったところです。地域のごみ処理については、市でもごみ袋を提供したり、色々協力していると思いますが、今後も地域の声を聞いて進めていただければと思います。

事務局： 村上市は海岸線が非常に長いのですが、地域の方が本当に一生懸命に、毎年1回と言わず、2回3回とごみを拾ってくださっています。市では、集めていただいたごみの処理をするなどの

お助けしかできていないのですが、地域の方と一緒に、海岸を管理するにあたり新潟県と連携して、きれいな海岸を保っていきたいと考えてますので、皆様のご協力をお願いします。

委員： 瀬波は三面川の川下なので、海岸に材木や流木とかが流れてきます。新潟県から依頼された村上市内の業者が、ブルドーザーで全部押してくるんですね。波除のところまで押して、そこに置いてくれるのはありがたいです。しかし、今お話しにありました海浜植物とか、その辺全部を押してしまっています。これでは、保護も何もないなと思います。またこの業者によると、予算がないからここまでで終わりということです。毎年毎年積み上がっていく現状で、瀬波地区の皆さんも、その辺ちょっと何とかならないかと話をしています。流木も、海岸のところに浮いているんだけど、その状態では漁師さんが網もかけられなどのことです。サケの時期に、あれでは入って来たくても入ってこれないという話もありました。

委員： まず処理にもお金がかかって、瀬波の方で前に 300 万ぐらい費用かかると聞いたことがありますので、年に何回もやれることではないので、本当に観光地でもありますしね。まして今のサケの話も出ましたが、サケが登ってこれないというのもまた困りますね。

委員： ごみの削減についてお聞きしたいんですが、剪定した枝や葉っぱは、資源化をするように進めているという話でしたが、別紙 2 の施策評価一覧において、垣根のある家庭にはゴミ袋を配布しているとのことですが、資源化と矛盾していませんか。

事務局： 剪定した生垣の枝用にごみ袋を配布するというは、この辺の武家町地区の景観維持のための生垣の維持管理を地元住民の方にしていただくということで、景観を守っていきましょうという意図で計画に搭載しています。一般ごみとして出す方もいればコンポストでたい肥化する方もいます。コンポストも補助制度もあり、使っていただいている方はいらっしゃいますが、置く場所がないなど、全ての方がコンポストを利用する状況には至っていないのが現状です。

委員： 別紙 1 の松くい虫の被害拡大についてですが、これだけ被害面積が拡大しているのに、樹種はマツでいいのでしょうか。文献によると昔は、松ヤニを捕るとか、作物を被害から守るということで、瀬波町の人と村上町の人で分担して、瀬波から松山の方に全部植林したという話はあるんですけども、松くい虫被害がどんどん増えている状態で、植林しても、育つまで時間がかかりますし、「白砂青松」という言葉もありますので、それを残そうと思っているのはわかりますが、果たして今この時代に、適正な植物なのかと思っています。

委員： 確か九州の熊本で、マツに見切りをつけてそれに代わる樹種を何種類か植えてみて、どれが適正はあるのかというようなことをやってるというようなことを聞いたことがあります。この被害は南の方からきているので、そういった情報収集ですとか、やっぱり何十年も農薬を撒き続けるのかといった問題もありますし、アカハネバッタなどの貴重な虫にも影響があるということも考えられますので、そういった検討も必要なのではないかと思います。

事務局： この松くい虫被害がこれだけ拡大してるのは、やはり地球温暖化が一番の影響だというふう
に言われております。地球温暖化の方も、今どんどん進んでおりまして、なかなか改善策が見
いだせない状況でありますので、樹種の代替が可能かどうかなど、農林水産課とも情報共有し
て進めていきたいと考えています。

(2) 令和5年度村上市の環境状況について
(資料2に基づき事務局から説明)

委 員： 生ごみ堆肥化容器の補助制度ですが、令和4年度と5年度で実績が半減していますが、だん
だん申請が少なくなってるのでしょうか？それともたまたま波があるのでしょうか。

事務局： 買い替えの方が多いという印象ですが、年度でばらつきはあると思います。

委 員： 水質調査についてですが、村上地区の石川の明神橋の11月と朝日地区の高根川の高根川大
橋の11月の大腸菌の値が大きいのですが何か理由はありますか。

事務局： 調査の前日に雨が降ったことが要因という検査機関の意見でした。

委 員： 調査日は指定しているのでしょうか。

事務局： 調査日については、調査機関と協議し、毎年同じような時期に調査する体制となっております。

事務局： 濁りがあまりにも強いときには検査は当然しませんが、今回ちょっと様々な要因でたまたま
差が出るところがあるということで、機関に話を聞いたりしておりますが、ちょっと雨が多い
ときだったんじゃないかという推測です。ただ、他の数値をみてもわかるとおり濁った水では
ありません。

委 員： 測定する場所もうまく網羅されているなと思います。濁りといいますが、同日に観測を
していることはないと思います。採水場所と日付が分かればより具体化するのではないでしょ
うか。おそらく出水によるだろうという推測ですが、市で実施する測定は、貴重なデータです
のでその辺だけはちょっと気をつけていただきたいと思います。

委 員： 不法投棄のことなんですが、以前瀬波の河口で、船体やエンジンなど不法投棄があり、新潟
県と連携して対処したことがありました。もしこれ以外にもあれば、後々オイルなどが、三面
川の方にどんどん流れていくのではないかと心配です。何か調査等できればと思います。

委 員： 私も水質に関してなんですが、昨年の審議会でも、特に大腸菌数が、環境基準値をオーバ
ー、もしくは高い値になってる箇所があったと思いますが、そういうところが例年同じところ

が時期的にも同じ時期に、数値が上がるようであれば、その土砂だけが原因ではなく、何かしら別の要因があるんじゃないかと考えられます。昨年の資料、もしくは更に数年前の資料から遡って確認してはどうでしょうか。そこで「環境への大きな負担もないからこれはこのままでいい」という判断にするのであればそれでいいですし、例えば「11月にすごく上がるのは、その時期に何かが流出するのではないか」というのであれば、それはやはり対策をとるべきではないかなと思いますので、検討していただけたらいいと思いました。また、資料についてですが、環境基準に達してないところに印をつけるといいかなと思いました。

事務局： 委員からご指摘いただいた「前年度の報告で大腸菌が増えてる時期があったのではないかな」という件ですが、確かにございました。ただし、前回基準値が高かった川は今回の川とは別な川でした。また時期についても、11月ではなく、3月に石川でそういうデータがありました。今原因を断定するには至らないのかなというところです。

委員： 今年の場合と同じではなく、時期も違ったということでそれであれば、一時的なものだと思いますので、今後また注視していけばいいのかなと思います。

委員： 三面川のサケの現状について何かお話はありますか。

委員： この審議会に関連するのは、やはり河川環境です。村上市内の内水面では、大川漁協、荒川漁協、三面川鮭産漁協が生業としてやっておりますが、メインはやっぱりサケになります。サケの不漁の原因は、平たく言うと海面の温暖化や気候変動で片づけられてしまって、ファーストペンギンが全国どこにもいない状況です。岩手県では、有名な「南部鼻曲がり鮭」と称していますが、今壊滅的状況です。それで岩手県が全県を挙げて、温暖化に対応できるサケの子供を作らないと駄目だということで、県で費用を負担し、地元市町村も協力しながら、莫大な資金と研究費をかけて、今プロジェクトとして立ち上げています。私どもはサケの事業では稚魚を1グラムで放流していますが、岩手県ではそれを6グラムで放流して、分析しています。津軽暖流と、黒潮の支流がぶつかって、2つの温水の帯があると、そこを耐え抜いて生き抜いていくサケの稚魚じゃないと、もう岩手県には永遠に戻れないという研究結果でした。新潟県の方も危機的状況ですが、それでも下越は上越や信濃川水系に比べると立地条件がいい方です。これまで我々は生業として、昔ながら言い伝えを守りながらやってきましたが、サケがただ放流しっぱなしでいいのか、海に下って何度になったら北へ帰るのかなど、わからないことが多いです。そういう状況ですので、海と川というのは、ものすごく繋がっているんで、海の状況がどう変わっているのかについても、漁協さんからお聞かせいただければと思います。

委員： ここ10年ぐらいから獲れる魚が変わってきて、特にサワラが去年の水揚げは過去最高に上がるぐらいの漁獲量でしたが、一方では、ここ最近で言いますと他にヤナギガレイなどカレイ類が全然獲れなくなったり、ワタリガニやハタハタも獲れなくなりました。マダラは今ちょっと獲れています。これまでは、「今の時期だとこの場所行けば、これが獲れる」という、漁師さんたちの経験でやっていたんですが、今はうまくいかない感じです。秋口になっても、いっ

ばい獲れる量の魚があるはずなのに、全然獲れなくなりました。毎年毎年、海の中の環境が変わって、獲れる魚が変わって、漁師さんが苦労しているところです。未利用魚といわれるカナガシラも、前はいっぱい獲れましたが、去年ぐらいからまた獲れなくなりました。サケも、北海道の方から全然獲れないと騒いでいますし、去年も全然獲れませんでした。本当に海がだんだんおかしくなってるのかなと感じています。

委員： 魚の種類を言われましたが、獲れなくなった魚とは逆に、今までと違って何か獲れる魚はありますか。

委員： 今までだったら「ハタハタが獲れなくても、マダラが獲れる」などありましたが、今は、底曳船の大きな船ですと、カニが獲れますので、それを生業にしています。板曳を主力としている漁師さんたちは、ヒラメが時期によって獲れたり獲れなかったりと苦労している感じです。

委員： 今日、お話を頂きましたが、生業として、生活がかかっている方達、それから私たちも食の問題で、いろいろ今までと違う状況にあります。私は北海道の十勝の出身ですが、十勝川でもサケが遡上して飛び跳ねる様子を子供のころから見て育ってきましたが、北海道でも獲れなくなったとのことです。歴史的文化がある村上の大事なサケも、大変な状況になっています。私達が、少しでも温暖化を防ぐための努力をしないといけないと思います。

4 その他

(事務局より諸連絡あり)

5 閉会 (午前 11 時 30 分)

(副会長あいさつ)

【以下余白】